

四條畷市防災マップ

Disaster prevention map of the City of Shijonawate

四條畷市防災地図
시조나와테시의 방재 지도

令和5年1月現在

●あらかじめ家族が避難する避難所や離ればなれになった時の集合同所を決めておきましょう

わが家の避難所
家族の集合同所

■いざという時の連絡先

行政機関	警察 (緊急) 消防 (火事・救急) 四條畷市役所	110 FAX 06-6941-1022 FAX 119 072-877-2121 0743-71-0330 072-877-2074 0743-78-0175 072-877-1231 072-877-6963	ライフライン機関 関西電力 送配電線フリーコール 大阪ガス(株) ガスもれ通報専用 四條畷水道センター	(固定電話) 113 (携帯電話) 0120-444-113 0120-113889 0800-777-3081 QRコード
医療機関	田原支所 市立保健センター 北河内藤井病院 眼生会脳神経外科病院	0743-78-0175 072-877-1231 072-879-5314 072-877-6639 072-877-6692		

■防災行政無線の内容が聞き取れなかったとき

☎0120-474-575

- ・防災行政無線の電話応答サービスです。
- ・通話料無料。携帯電話からも確認できます。
- ・全国瞬時警報システム(J-ALERT※)は国からの自動放送のため、システム上案内できない場合があります。

※全国瞬時警報システム(J-ALERT※)は国からの自動放送のため、システム上案内できない場合があります。

■おおさか防災ネット <http://www.osaka-bousai.net>

大阪府と市内の全市町村が共同して、様々な防災情報を提供するポータルサイトです。防災情報メールサービスに登録しましょう。利用登録すると、四條畷市の気象情報などが携帯電話に配信されます。

「[touroku@osaka-bousai.net](http://www.osaka-bousai.net)」またはQRコードを読み取り、空メールを送信。

■NTTの災害用伝言ダイヤル ※災害時のみのサービスです。被災地区の電話番号を、市外番から登録します。

無事であることを伝えたい	録音	0771→1→被災した家の電話番号→伝言を入れる
安否を確かめたい	再生	0771→2→被災した家の電話番号→伝言を聞く

まちぐるみの大切さ

災害時は、地域での助け合いが大切です。阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋から救出された方々の8割は近所の方々の協力で助け出されたと言われています。

■作ろう、参加しよう、育てよう

災害時に一番大切なことは、近隣所や各地区の入道が、お互い助け合うことです。このため、日頃から防災について話し合ったり、役割を決めた訓練をするなど、いざというときに臨機応変に対応できるように、万全をはたします。日ごろお付き合いしている近隣所や自治会の入道が、災害が発生したときに、お互いに助け合い、協力しあえるよう心がけることから自主防災の活動がはじまります。

■みんなで学ぼう!

一人ひとりが防災に関心を持ち、防災に関する知識を身につけましょう。災害が起こったときには、自分たちのまわりの予想される事態やそれへの対応について話し合います。また、活動が必要とする人たちに、それぞれができるか、どのような支援体制がよいのか、打ち合わせしましょう。

要配慮者の支援

要配慮者とは、災害時に必要な情報の確かな把握や、災害から身を守るために安全な場所に避難するなどの災害時の避難行動をとることに支援を要する人のことをいいます。高齢者、障がい者、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人その他の特に配慮を要する人のことをいいます。

災害時、要配慮者に対する支援はその状況により対応が異なります。下記説明を参考にして、それぞれの対応を把握しておきましょう。

高齢者の方へ 援助が必要なときは、できるだけ数人の方で対応する。急を要するときは、おふたり組で安全な場所へ。	目が不自由な方へ 杖を持った方はとらず、うでやかたにつかまってもらいゆっくりと歩く。方向や目の前の位置などは、時計の文字盤の位置を想定して伝える。	外国人・旅行者の方へ 身振り、手振り、絵を指さし、孤立させない。	肢体の不自由な方へ 気軽に声をかけ、1人で援助が困難なときは、近の人に協力を求める。車いすは、階段では3、4人で援助する。上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きに。	耳が不自由な方へ 筆談を要点でわかりやすく、手話のほかに指文字を書く方法もよい。話をするときには、顔をまっすぐ向け、口を大きく動かしてゆっくりと話す。
---	--	-------------------------------------	---	--

風水害が起る前に

風水害の危険度を把握しましょう

警戒レベル	状況	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	災害発生又は切迫	命の危険があります。直ちに安全確保を行いましょう。	緊急安全確保(市が発令)

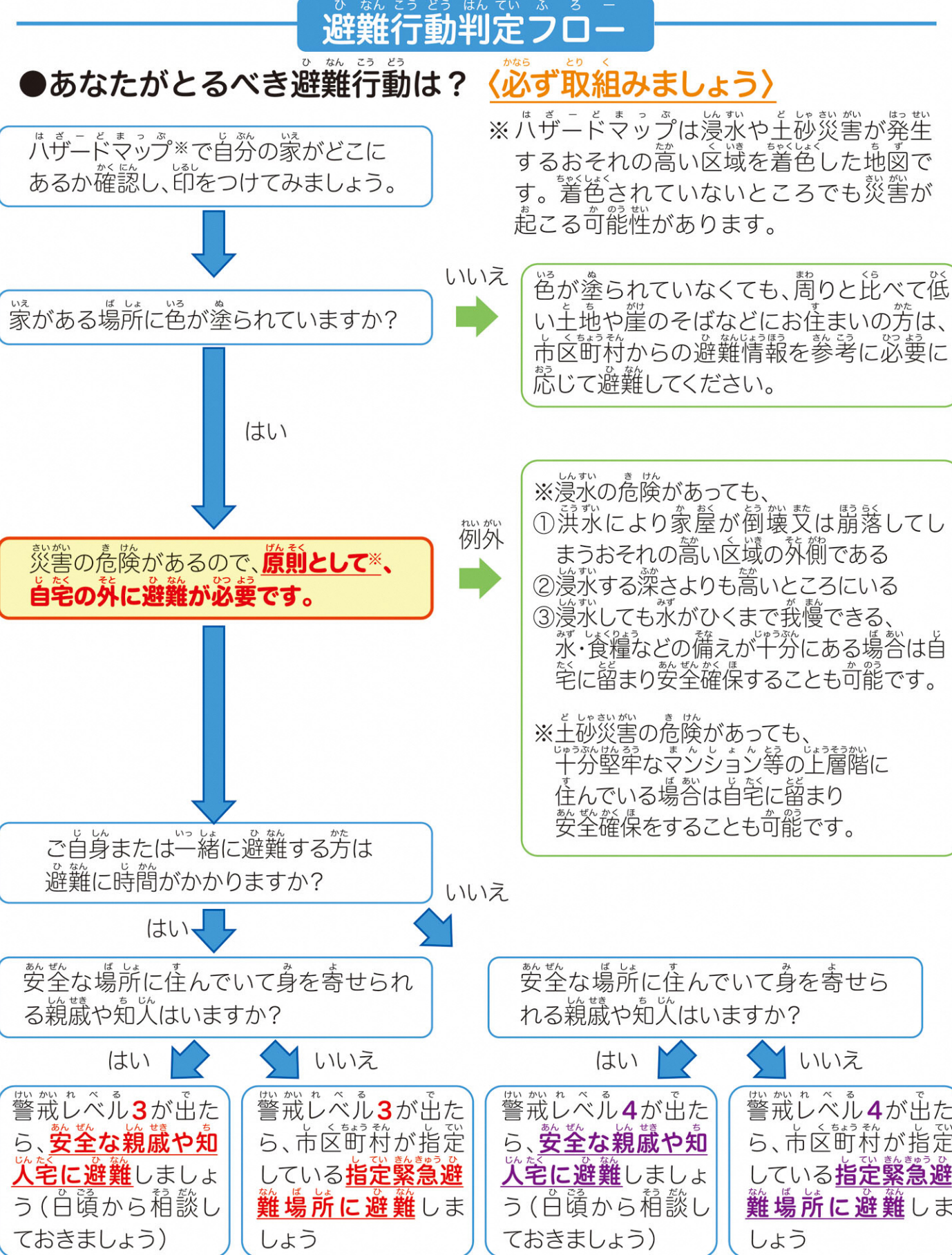
《警戒レベル4までに必ず避難!》

警戒レベル4	災害のおそれ高い(土砂災害警戒情報)	速やかに危険な場所から全員避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(市が発令)
警戒レベル3	災害のおそれあり(大雨警報)(洪水警報)	避難に時間を要する人(高齢者の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難しましょう。それ以外の人も必要に応じて自主的に避難しましょう。	高齢者等避難(市が発令)
警戒レベル2	気象状況悪化(大雨注意報)(洪水注意報)	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	(気象庁が発令)
警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ(早期注意報)	災害への心構えを高めましょう。	(気象庁が発令)

上表の市が発令する「避難情報」の名称は、法律改正により令和3年梅雨期から運用開始の名称を記載しています。状況の()は気象情報等を示しています。気象庁から気象警報等が発令されても、避難情報等を発令するとは限りません。

ハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

●「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。



「避難」って何すればいいの?

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること。下の4つの行動があります。



地震が起きたら

地震発生から避難後までの行動マニュアル

地震は突然発生するので日ごろの備えが大切です。大きな地震が発生したら「慌てずに身の安全を確保」、「安全なところに移動」、「より安全なところに避難」

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。
- あわてて飛び出しさない。
- 大きな揺れの場合は、揺れがおさまってから火の始末をする。

1~2分

揺れがおさまったら

- 火元を確認、火が出たら落ちついて初期消火する。
- 家族の安全を確認、倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
- 家の中はガラスの破片が散乱、靴や厚手のスリッパをはく。
- 避難するときは、屋根瓦等の転落やラック棚、自動販売機等の転倒に注意する。
- 仕事やレジャーで海岸部に滞在している場合、直ちに高台へ避難する。

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

●近所に声をかけよう

- 災害者の安全確保、隣近所で助け合う。
- 行方不明者はいないか。 ●けが人はいないか。

●火災防止

- 初期消火、消火器を使う。バケツリレー、風呂の水はためておく。
- 初期消火、消火器を使う。バケツリレー、風呂の水はためておく。
- 漏電、ガス漏れに注意。 ●電気のブレーカーを下げる・ガスの元栓を閉める。

協力して消火活動、救出・救護活動

- 大声で知らせる。 ●救出・救護をする。
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認する。
- デマにまどわれないようにする。
- 避難時に車は協力便わい。 ●電話は緊急連絡を優先する。

ラジオ等で正しい情報を得る

- 水、食料が蓄えているものでまかなう。
- 3日間(できれば1週間)の飲料水と食料の準備をしておく。
- 災害・被害情報を収集する。
- 助け合いの心が大切。 ●壊れた家に入らない。

家具・家電の転倒防止対策

地震の揺れによる家具・家電等の転倒から命を守るため、寝室や通路にある家具等は、倒れないようにきちんと固定するか、安全な場所に移動させましょう。

ダンス・本棚 L字金具や鎖・ベルトなどで固定する。二段重ねの場合は、つなぎ目を金具でしっかり連結しておく。	食器棚 L字金具や鎖・ベルトなどで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止める金具をつける。
冷蔵庫 2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。	テレビ できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上は避ける)。
照明器具 チェーンと金具を使って数ヶ所止める。蛍光灯は蛍光灯の両端を耐熱テープで留めておく。	ピアノ 本体にタイロシローなどを巻き付け、取り付けた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

推定震度分布図

